

付録2 食品安全モニターによるリスクコミュニケーション活動への意見の集約

＝本報告は詳細報告の要約である＝

食品安全モニター報告（平成15年10月分～平成19年11月分）

「リスクコミュニケーション関連」を中心に意見と回答の要約データ

食品安全モニター報告の活用について

「リスクコミュニケーション関連」を中心に意見と回答の要約
第35回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料3-2より

平成19年11月分（3件）

1 感想：食を考える意見交換会（宗像市）に参加：活発な意見交換だった。地方都市で開催されたことは異例で感謝したい。

回答：今後も、随時情報を収集しながら外国人有識者（研究者）を招聘した、意見交換会を定期的
に実施することを検討。ご参加、ご家族ご友人にもお声がけをいただければ幸いです。

2 感想：機関紙 Vol. 14 見上委員長の寄稿記事を読んで：ご指摘のように「安心・安全」が四字
熟語のように使われるのには私も批判的。食品安全委員会がさらに発展し、市民から信頼される組
織になること願う。

3 感想：機関紙 Vol. 14 見上委員長の寄稿記事を読んで：見上委員長の意見に大賛成。「安心・安全」
が四字熟語のように使われ、危ない食品だらけのような印象を与えている。食品安全委員会が
本意見を諸機関に発信し続け、安心の求めすぎ傾向が是正されることを期待。

平成19年10月分（4件）

1 要望：地域指導者育成講座に参加：指導者を育成していくのであればモニターの中から受講者
を選考し、講座を継続的・定期的で開催し、受講修了者に活動支援や指導者の権限を与えてほ
しい。

回答：受講者名簿に登録、食品安全委員会の最新情報の提供、地域での主体的な活動を積極的に支
援したい。まずは全都道府県で開催することを主眼においている。

2 感想：WHOモイ博士の講演会に参加：シクロブタノンの安全性について討論する機会をあら
ためてつくってほしい。

回答：随時情報を収集しながら外国人有識者（研究者）を招聘した、意見交換会を定期的
に実施。

3 感想：意見交換会に参加：行政に対してのみにならず、各責任分野を意識しながら意見交換が
できたのは望外の喜びだった。

4 感想：食の安全実践セミナーに参加：いい刺激になった。新たな偽装や改ざんについて一般消
費者は安心できない。

回答：自治体主催の会のみでなく、食の安全性に関するリスクコミュニケーショ
ンの一環として実施。今後も、随時情報を収集しながら有識者を招聘した講演会、意見交換会を定期的
に実施。ご家族ご友人にもお声がけをいただければ幸いです。

第34回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料2-2より

食品安全委員会活動一般から

食品安全モニター会議のあり方

感想：今年の会議は質疑応答時間が多くモニターの取り組み事例報告があり良かった。

要望：会議の趣旨・目的を明確にし参加者が目的を持って参加できるようにすべきで、そのために対象
地域を狭め20名程度までの参加とし発言しやすい環境を整える必要がある

感想と要望：食品安全委員会の業務の説明とリスク評価の実際の講義があった。モニターの発言方法と
時間に工夫が必要

要望：事務局とモニター間の意見交換だけでなくモニター同士の意見交換の配慮が必要

回答：

指摘やアンケート結果を参考にしている。食品安全モニター会議は5～6月に全国7都市で10回開催。
食品安全委員会の役割と取組、リスク評価事例の説明と、委員や管理機関担当者との意見交換をした。

昨年度から活動しているモニターの地域での活動紹介を依頼した。

平成19年8月分(0件)

「リスクコミュニケーション関連」なし。

平成19年7月分(3件)

1 要望:食に関わる「健康影響報道」について:発信者に対して情報の科学的根拠の提出を求め、その評価の結果を公表する仕組みが必要。

回答:ご指摘の点を含め「健康影響報道」について報道者への正確でわかりやすい情報提供に努めたい。プレスリリース、報道関係者と懇談会を定期的実施。

2 感想:どの情報が正しいか受け取る側が自ら学習することが必要。国や县市町村が連携、役割分担を行い、わかりやすい情報を提供することが大切。

3 意見:食品の安全・安心に関わる部分で実際に取り組んでいる企業の見学会を行うと「安全」に対してより一層の理解が深まる。行政サイドで出来ればよいがNPO法人や団体等に委嘱して積極的に行う方法もある。

平成19年6月分(2件)

1 感想:消費安全モニターに参加:BSEのリスクについての説明の際、既知物(ソラニン)の毒性と比較して説明されたが余計に不安をあおられた。

回答:直接比較する意図はなかった。ご指摘の点を含め、わかりやすい情報提供に努めたい。リスク分析の考え方についてわかりやすく解説したDVDソフトを作成。

2 感想:モニター会議に参加:リスク評価の意味を理解し消費者の目で伝える人材が必要であること、情報に関して受身にならず考えて判断することが大切だと思った。

食品安全委員会活動一般から

食品安全モニター会議のあり方

感想:今年の会議は質疑応答時間が多くモニターの取り組み事例報告があり良かった。

要望:会議の趣旨・目的を明確にし参加者が目的を持って参加できるようにすべきで、そのために対象地域を狭め20名程度までの参加とし発言しやすい環境を整える必要がある

感想と要望:食品安全委員会の業務の説明とリスク評価の実際の講義があった。モニターの発言方法と時間に工夫が必要

要望:事務局とモニター間の意見交換だけでなくモニター同士の意見交換の配慮が必要

回答:

指摘やアンケート結果を参考にしている。食品安全モニター会議は5~6月に全国7都市で10回開催。

食品安全委員会の役割と取組、リスク評価事例の説明と、委員や管理機関担当者との意見交換をした。昨年度から活動しているモニターの地域での活動紹介を依頼した。

第33回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料1-2より

平成19年5月分(1件)

1 感想と要望:リスクコミュニケーションは必要だが、報道の根拠を明確にし、関係者に十分な科学的教育をして欲しい。不明確な報道が流れないようなシステム作りも必要。

回答:ご指摘の点を含め適切な情報の発信、報道関係者との意思疎通に努めたい。プレスリリースの内容をメールにて報道関係者に配信、また、定期的に報道関係者との懇談会を開催。

第32回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料1-2より

平成19年4月分 (0件)

平成19年3月分 (3件)

- 1 感想：食品の安全性に関する用語集について：ルールブックとなる用語集の役割は大きい。
- 2 感想：食品安全委員会のホームページを見て：キッズボックスのさらなる充実、専門家にも一般にも対応できる作りを期待。
- 3 感想：食品安全委員会のメールマガジン「委員隋録」をよんで：本音が書かれ読み応えがあった。今後も本音を紹介して。

回答：ご指摘の点を含め適切な情報の収集、発信に努めたい。関係者の理解を深めるために用語集を作成、ホームページにも掲載。メールマガジン上にも、用語についてわかりやすい解説に努めたい。様々な媒体を通じて正確でわかりやすい情報の提供に努めたい。

平成19年2月分 (7件)

- 1 感想と要望：食品違反事故の報道について：いたずらに消費者の不安を煽り、消費者の選択に誤りや誤解が生じる。国はテレビ・ラジオがリスクコミュニケーションのツールの一つとなるよう公正な内容になるように指導して欲しい。
- 2 要望：発信される情報を無作為に抽出し情報の審議や危険度の検証システムを食品安全委員会に構築して欲しい。
- 3 要望：食品安全委員会が中心となり食品の効果やリスクについて正確でわかりやすい番組を制作して欲しい。
- 4 要望：消費者や視聴者の信頼回復に向けて関係書記官の連結を密にして企業やマスメディアへの指導を徹底して欲しい。

回答：ご指摘の点を含め適切な情報の発信、報道関係者との意思疎通に努めたい。プレスリリースの内容をメールにて報道関係者に配信、また、定期的に報道関係者との懇談会を開催。

- 5 要望：情報発信の手段を検討して欲しい。

回答：ご指摘の点を含め様々な媒体を通じて正確でわかりやすい情報の提供に努めたい。ホームページに、メールマガジン、相談窓口を開設。食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省と連携し、適切な情報の発信に努めたい。

- 6 感想：大手菓子メーカー等の問題の報告について：食品安全委員会として随時報告して欲しい。
- 7 感想：「病気になるない生き方」という本を読んで：書籍、新聞、TV報道に惑わされないようにしたい。バランスが一番ということを消費者が理解できるような報道や書籍が増えることを望む。

第30回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料1-2より

平成19年1月分 (2件)

- 1 感想と要望：納豆ダイエットのテレビ報道について：振り回される国民に対して正しい知識の啓蒙に努めてほしい。

2 感想：納豆ダイエットのテレビ報道について：テレビ番組で紹介する特定成分と、販売されている食品に表示されているものが異なる可能性がある。この場合、消費者が戸惑うだけでなく、商品安全上の問題が起きるのではないかと。発信される情報を無作為に抽出し情報の審議や危険度の検証システムを食品安全委員会に構築して欲しい。

回答：消費者や視聴者の食の知識を深めるために幅広い情報発信やリスクコミュニケーションを積極的に実施している。またプレスリリースによる積極的に情報の提供、マスメディアとの懇談会の開催、ホームページトピックス「健康被害事例」の掲載に努めている。

納豆のような食品は、特定成分に着目するよりもバランスの良い食事の中で取ることの方が重要。

平成18年12月分（0件）

第29回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料1-4より

1 感想と要望：地域指導者育成講座（東京）に参加して：大変良い試み。趣旨に賛同。構成メンバー、講演テーマ、演習の課題に疑問。善処を希望。

回答：ご意見、アンケートの結果を踏まえより良い講座になるよう工夫に努めたい。

2 要望：食の安全に関する自治体主催の意見交換会に参加：活発な意見交換会だった。今後も食品安全委員会と自治体が協力して市民対象のリスクコミュニケーションを推進することを望む。

2 要望：食品に関するリスクコミュニケーション（東京）に参加して：ダグマー・ハイム博士が消費者組織への十分な働きかけと消費者への信頼を得る努力が必要と力説していたのが印象的。わが国でも消費者が納得できる方法を是非検討してほしい。

回答：全国での意見交換会、意見の募集、食の安全ダイアルに対する問い合わせの対応、ホームページによる情報の発信、機関紙の発行などに取り組んでいる。意見交換会は自治体と共催で開催中。本年11月にまとめた報告中では、さらにきめの細かい意見交換会や、フォーカスグループインタビューの実施等を提言。今後は本報告を踏まえ、工夫や改善をしながらリスクコミュニケーションの更なる推進に努めたい。

平成18年11月分（3件）

1 感想と要望：地域指導者育成講座（東京）に参加して：

1 感想と要望：地域指導者育成講座（東京）に参加して：大変良い試み。趣旨に賛同。構成メンバー、講演テーマ、演習の課題に疑問。善処を希望。

回答：ご意見、アンケートの結果を踏まえより良い講座になるよう工夫に努めたい。

2 要望：食の安全に関する自治体主催の意見交換会に参加：活発な意見交換会だった。今後も食品安全委員会と自治体が協力して市民対象のリスクコミュニケーションを推進することを望む。

3 要望：食品に関するリスクコミュニケーション（東京）に参加して：ダグマー・ハイム博士が消費者組織への十分な働きかけと消費者への信頼を得る努力が必要と力説していたのが印象的。わが国でも消費者が納得できる方法を是非検討してほしい。

回答：全国での意見交換会、意見の募集、食の安全ダイアルに対する問い合わせの対応、ホームペ

ージによる情報の発信、機関紙の発行などに取り組んでいる。意見交換会は自治体と共催で開催中。本年11月にまとめた報告中では、さらにきめの細かい意見交換会や、フォーカスグループインタビューの実施等を提言。今後は本報告を踏まえ、工夫や改善をしながらリスクコミュニケーションの更なる推進に努めたい。

平成18年10月分（5件）

1 感想と要望：地域指導者育成講座（東京）に参加：非常に期待されるリスクコミュニケーションの一環。全国で、複数回の開催を。できるだけ多くの人に参加できるように。
回答：全国での意見交換会、多くの人参加を頂きたい。開催、参加者募集についてはホームページに随意時掲載。本講座御参加の皆様には成果を生かし地域で活動していただけることを期待する。

2 要望：食品安全委員会は子ども向けにきめ細やかな啓蒙活動を行う必要がある。
回答：キッズボックスの開設、子供向けリーフレットの発行を行っているので活用していただけることを期待する。ご指摘の点を含め工夫に努めたい。

3 感想：10月13日開催のBSE リスクコミュニケーション（東京）に参加：パネリストは業界の代表であることを自覚して欲しい。国側も公平性を保つための配慮をして欲しい。
回答：ご指摘の点を含め一層の工夫に努めたい

4 感想：メールマガジン20号委員随録を読んで：安心と安全の違いを啓発していく必要がある。

5 感想：安全でない（危険）と安心できない（不安）の議論がすりかえられている。政府は食品の安全確保に万全をきせばよく、議論は安全に絞るべき。

平成18年9月分（3件）

1 感想と要望：リスクコミュニケーションのあり方（平成16年7月発表）に対して：専門家・情報提供者は具体的な語彙の知識やリストを明示する必要がある。
回答：用語集の作製・配布、ホームページにおける用語の解説を掲載。ご指摘の点を含めよりわかりやすい平易な言葉での説明に努めたい

2 感想：米国産牛肉輸入再開時のマスコミの報道を視聴：単なる批判精神で報道するのは無責任。

3 感想：市民フォーラム（残留農薬とポジティブリスト制度について）に参加：現場の生の声を聞くことができた。制度導入の理解と食の安全について考えるよい機会でした。

第28回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料1-5より

平成18年8月分（2件）

1 要望：説明会や意見交換会の開催日時が平日の昼間なので一部の人しか参加できない。土日夜なども考えてほしい。
回答：過去に土日や平日の夜の開催を試みたが、出席者等に大きな変化は見られなかったし、アンケートにもこうした要望は多くありませんでした。ご指摘の点を含め、これまで頂いた意見を踏まえながら意見交換会がよりよいものとなるよういっそうの工夫に努めたい

- 2 要望：是非リスクを知らせることにより消費者が食品を選択し安全に使いこなせるようリスクコミュニケーションを推進してください。

平成18年7月分（2件）

- 1 要望：ニュージーランドFood Safety AuthorityはホームページにResponse to Mediaのコーナーを設けメディアの話題にコメントをつけている。食品安全委員会としてこの取組みを参考にしてみてもどうか？
- 2 要望：テレビの健康番組を視聴して：TVの健康番組について放映後に番組内容を検証し審査内容を報告することも必要。

回答：食品安全委員会では国民の皆様へ食品の安全性について理解を深めていただくためにホームページによる情報の発信、機関紙の発行など幅広く適切に情報の発信に努めている。報道関係者にはプレスリリース、懇談会を定期的で開催しています。このほか平成18年度は諸外国におけるメディア対応、マスメディア報道とその影響分析に関わる調査を行う予定です。今後とも引き続き適切な情報発信が行なわれるよう、報道関係者への的確な情報提供にも努めたい。

平成18年6月分（5件）

- 1 感想と要望：「食品に関するリスクコミュニケーション」に参加：食品安全委員会は食品の評価機関であり、管理機関ではない点が明確に理解されていない。「リスク管理機関」「リスク評価機関」の違いを明確にして、知らせて欲しい。

回答：「食品安全委員会の役割分担、リスク分析手法」等の情報提供を、多様な媒体を通じて行い、活動「リスクコミュニケーション」を積極的に実施しているが、今後も、ご指摘の点を含め、適切でわかりやすい情報の提供に努めたい。

- 2 要望：メールマガジンを受信：専門用語の解説よりも、活動内容の最終結果が消費者にとっていかに有効かを説明して欲しい。

回答：ご指摘の点を含め改善に努めたい。

- 3 要望：「食品安全モニター会議に出席して」会議の運営に関して工夫してほしい。①いつ、どのような発言を求めているのか明確に。②一問一答にしないでほしい。③時間厳守。④運営する側のビジョンを明確に。

- 4 要望：各地で開催する「リスクコミュニケーション」を増やしてほしい。

- 5 要望：行政側の情報を、開示するだけでなく、正確に広報する必要がある。

回答：ご指摘の点を含め工夫に努めたい。

- 6 要望：子供でも理解できるような啓発資料や現場で使える教材を作してほしい。

回答：ご指摘の点を含め適切な情報の発信に努めたい。平成18年度には教材の提供を行う。（参考として参照ホームページアドレスを掲載。）

- 7 要望：健康被害が起きないようにテレビ番組への規制・基準を設けてほしい。

- 8 感想と要望：情報番組を視聴して：食の安全性という面でもっと充実させる仕組みを食品安全委員会で作っていくことはできないだろうか。

回答：ご指摘の点を含め、国民の皆様へも、報道関係者に対しても、正確でわかりやすい情報の提供に努めたい。

平成18年5月分（12件）

- 1 感想：農薬ポジティブリスト制度意見交換会パネリストとして参加：制度新設の意義と適用の肯定的な評価とともにとんでもない制度であるとの反省
- 2 感想と要望：農薬ポジティブリスト制度意見交換会に参加：各章の取組み理解ができ参考になった。パネリストの選択は適任に！
- 3 感想：BSE意見交換会に参加：従来と変わり意見を聞く時間を取り説明を短くしたことを評価。

回答：ご指摘の点を含め改善に努めたい

- 4 要望：報道機関担当者に基礎的知識や旬な話題提供など啓蒙と工夫が必要
- 5 要望：米国産牛肉の輸入条件を知らない人が多いので要約版を作りPRすべき

回答：わかりやすい情報提供に努めている。報道関係者と懇談会を定期的に実施。

- 6 意見：健康情報番組の情報を消費者が自ら判断できるような基本知識を広めることが必要。
- 7 要望：「白インゲン豆ダイエット」における健康被害を例：生活者の情報収集に資するため健康被害情報を分かりやすく迅速に提供するホームページを作してほしい。
- 8 要望：「白インゲン豆ダイエット」における健康被害に対して：番組内容に対して安全上の行政指導ができないか。健康情報の安全性に対して行政も常に情報収集し国民に啓蒙してほしい。
- 9 感想：「白インゲン豆ダイエット法を試したにおける健康被害に対して：市販食品だったら大問題になっていた。テレビの健康情報が国民の健康に与える影響について評価することも必要。
- 10 感想：「白インゲン豆ダイエット」における健康被害に対して：放送局の責任と視聴者のリテラシーを問う。
- 11 意見：「テレビ番組のダイエット」における情報に対して：学説をテーマにする場合複数の学会や学者の認定を要する仕組みを設けてはどうか。

回答：健康被害事例についてホームページに掲載。厚生労働省のホームページともリンク（アドレス掲載）。健康被害情報についてわかりやすい情報提供に努めている。

- 12 意見：食への不安は心理的な部分。生産、流通の様子が不透明であるところに不安の原因がある。消費者に対して積極的な情報の提供をお願いしたい。

第27回 リスクコミュニケーション専門委員会

モニター資料（2.26現在のところありませんでした）

第26回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料2-3より

平成18年4月分（0件）

第25回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料2-2より

平成18年3月分（4件）

- 1 感想と要望：リスクコミュニケーションのあり方（平成16年7月発表）に対して：専門家・情報提供者は具体的な語彙の知識やリストを明示する必要がある。

回答：用語集の作製・配布、ホームページにおける用語の解説を掲載。ご指摘の点を含めよりわかりやすい平易な言葉での説明に努めたい

- 2 感想：米国産牛肉輸入再開時のマスコミの報道を視聴：単なる批判精神で報道するのは無責任。

- 3 感想：市民フォーラム（残留農薬とポジティブリスト制度について）に参加：現場の生の声を聞くことができた。制度導入の理解と食の安全について考えるよい機会でした。

第24回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料5-5より
平成18年2月分（0件）

- 1 感想と要望：リスクコミュニケーション

第23回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料5-3より

平成18年1月分（2件）

- 1 感想と要望：季刊誌「食品安全」(Vol.7) 寄稿・委員の視点を読んで：不十分な情報的今日を排した、良識あるマスコミの言動を期待する。
2 感想：メディアの発信情報について：表現の自由があるとはいえきちんとした情報を発信してもらえよう指導をお願いします。

回答：国民の皆様には知識と理解を深めていただくためホームページ、季刊誌、パンフレット他様々な媒体や機会を通して適切な情報の提供に努めている。また、適宜プレスリリースを行いマスメディアに積極的に情報を提供、その内容についても問い合わせの対応を行っている。更に懇談会も定期的に開催している。ご指摘の点を参考にマスメディア関係者との意思疎通に努めたい。

第22回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料4-2より

平成17年12月分（4件）

- 1 感想と要望：米国・カナダ産牛肉輸入に関する説明会に参加：タイムリーな企画。専門調査会委員の講演は難解な内容の理解に役立った。

回答：今後のご意見を参考によりよい意見交換会の開催に努める。

- 2 意見と要望：米国・カナダ産牛肉に関する意見交換会に参加：以下の改善を提案したい。①急遽の開催②主催者側の一方的説明と司会の進行③難聴者の配慮の欠如。また、国関係のモニター等への説明も必要。

回答：農水省・厚労省より：皆様のご意見を踏まえての開催に努めたい。内容により速やかな開催が必要になること、会場や予算の関係もあることをご了承いただきたい。

- 3 意見と要望：学校給食について：可能な限りの情報提供と質問要望が言える窓口の設置を希望。学校給食の安全性について食べる側がリスクコミュニケーションの機会を与えられていない。学校給食のあり方を再考する必要がある。

- 4 感想：食の安心・安全フォーラム（兵庫）のコーディネーターを行って：本会のパネルディスカッションをリスクコミュニケーションと位置づけて共有化するなどの工夫によりよい評価が得られた。自由な発言と勝手な発言が異なることをファシリテーターがしっかりと認識して進める必要がある。

第21回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料2-3より

平成17年10月分（0件）

平成17年9月分（3件）

- 1 感想と要望：食品安全モニター会議や意見交換会での講演の内容が専門的すぎて難解。一般者

対応のシンポジウムの開催を望む。

2 意見と要望：食品安全委員会のホームページの情報は大変役に立つ。もっと危険因子を知りたいが、専門的なリスクの説明は理解しがたい。不安を解消してくれるような幅広い情報公開を望む。

3 意見と要望：BSE 等食にまつわる不安要因に対して平素から関係者が情報を共有して、それぞれの危険発生時に愚痴的に各不安要因の特徴を理解し対処する必要がある。

回答：食品健康影響評価（リスク評価）のポイントQ&A、季刊誌での特集等、内容の周知に努めている。また用語集の作成、食の安全ダイアルによる問い合わせの対応、ホームページによる情報発信、全国各地での意見交換会の開催などを通じてリスクコミュニケーションに取り組んでいる。引き続き試行錯誤を続けながら取り組みに努めたい。

第20回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料4-2より

平成17年8月分（1件）

1 意見：リスクコミュニケーションはとても重要。従来の方法に更に踏み込む必要あり。リスク評価やリスク管理を正しく行ってもリスクコミュニケーションが不備になれば正しく機能しない。

回答：食品安全委員会より：様々な方法手実施に取り組んでいるが、より効果的なリスクコミュニケーションの実施を目指してご意見を踏まえながら今後もいっそうの努力に努めたい。

回答：厚生労働省・農林水産省より：意見交換会、パンフレット、ホームページ等を通じた情報提供に努めている。国や都道府県の担当者の研修も実施。ご意見を踏まえながら今後もいっそうの努力に努めたい。

第19回 リスクコミュニケーション専門委員会
モニター資料無し（20.3.17 現在）

第18回 リスクコミュニケーション専門委員会
モニター資料無し（20.3.17 現在）

第17回 リスクコミュニケーション専門委員会
モニター資料の中にリスクコミュニケーション関係の項目無し（20.3.17 現在）

第16回 リスクコミュニケーション専門委員会 資料6-2より
平成17年6月分（3件）

1. 意見と要望：食品についてよくわからない危うそうな言葉があふれ、そのどんな初歩的な疑問、誤解にも答える努力が必要である。権威のある科学者等による子供向けでないQ&Aの充実、マスコミに対しての丁寧な解説が求められる。

2. 要望：消費者の情報入手は多くがマスコミです。食品安全委員会の各種情報をマスコミに正確に報道してもらうため、対マスコミ広報活動の強化を要望します。

回答：食品安全委員会より：できるだけ分かりやすいQ&Aの作成とそれを食品安全委員会のホームページへの掲載、季刊誌、用語集の作成と配布を精力的に行っている。また意見交換会を開催し、質問等にできるだけ丁寧に説明することに心がけている。さらにマスメディア関係の方との懇談を通じ正確な情報提供に努め、意見交換会等にも多くのマスメディア関係者に参加していただいている。

3. 感想：全国9箇所「食品に関するリスクコミュニケーション」に参加した。机も休憩もなく。主催者側だけお茶を飲んでいて。政府がいかに関心を軽んじているかがわかった。残念だった。
回答：食品安全委員会より：今後とも意見交換会の運営方法等についてはご指摘の点を含め、

改善を図りつつ、関係者間での情報の共有に資するようになりリスクコミュニケーションの実施に努めていきたい。

回答：厚生労働省、農林水産省より：積極的なご参加ありがとうございます。リスクコミュニケーションの開催にあたりましては、できるだけ満足いただける意見交換会となるようその運営に努めてきています。いただきましたご意見は運営改善に役立たせていただきより満足いただける会となるようしたい。

食品安全モニターからの報告（17年7月分）について
＜意見等（一般報告）＞

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 8件
リスクコミュニケーション 0件

食品安全モニターからの報告（17年6月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 6件
 - ・ リスクコミュニケーション関係 3件
2. リスクコミュニケーション関係

○ 消費者の不安を取り除くためのリスクミのありかたについて

食品についてのどんな初歩的な疑問、馬鹿馬鹿しい誤解にもていねいに答える手立て、努力が必要である。マスコミで部分情報が流され、怪しげな健康番組で誇張される。権威のある科学者等がわかりやすい言葉で説明した、子供向けでないQ&Aの充実が求められる。マスコミに対しても丁寧な解説をすることが求められる。

（福岡県 男性 55 歳 食品関係業務経験者）

○ 広報活動のさらなる強化を期待します

消費者の食品安全関連情報は、多くをマスコミ報道から入手。食品安全委員会の各種情報を、マスコミに正確かつ冷静に理解され報道してもらうため、対マスコミ広報活動の一層の強化を要望します。

（茨城県 男性 66 歳 食品関係業務経験者）

【食品安全委員会からのコメント】

今後とも、様々な機会を利用しながら、国民の皆様は食品の安全性に関する科学的に正しい情報を正確かつわかりやすく提供するよう努めてまいります。

○ 「食品に関するリスクコミュニケーション」に参加して全国9箇所で開催された「食品に関するリスクコミュニケーション」(米国産牛肉等のリスク管理措置に関する意見交換会)に参加した。机も休憩時間もなく、主催者側だけお茶を飲んでいて、一事が万事。政府がいかにか国民を軽んじているかがわかった。米国産牛肉輸入再開に向けたシナリオの一節のようであり、残念だった。（沖縄県 女性 45 歳 食品関係業務経験者）

【食品安全委員会からのコメント】

今後とも、意見交換会の運営方法等については、御指摘の点を含め、皆様の御意見を踏まえながら改善を図りつつ、関係者間での情報の共有に資するようリスクコミュニケーションの実施に努めてまいりたいと考えております。

【厚生労働省及び農林水産省からのコメント】

意見交換会の開催の御案内から当日までの期間が短かったにもかかわらず、積極的な御参加をいただき、ありがとうございました。

リスクコミュニケーションの開催にあたりましては、多くの方が御参加いただけるような会場の広さや交通の便などを考慮した会場設定、皆様の御意見をより

多く伺えるような時間配分など、できるだけ満足いただける意見交換会となるようその運営に努めてきているところです。

いただきました御意見は、今後の意見交換会の運営改善に役立たせていただき、より満足いただける会となるようにしたいと考えます。

食品安全モニターからの報告（17年5月分）について

食品安全モニターから5月中に、37件の報告がありました。

報告内容

＜意見等（一般報告）＞

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 2件
- ・ リスクコミュニケーション関係 1件

リスクコミュニケーションの推進のためには、消費者間の理解度の差を埋めていく必要がある。「理解」が進まなければ、リスクコミュニケーションの推進にはつながらない。「食育」についての知識を深めることもその一助となる。また、消費者に対して身近な言葉で、身近な事例で伝えることのできる人材の育成が望まれる。

【食品安全委員会からのコメント】

食品安全委員会としましては、引き続き、幅広く食品の安全性について科学的知見に基づいた正しい情報を提供し、皆様の理解の増進を図るとともに、意見交換ができる機会を設け、リスクコミュニケーションの推進に努めてまいります。

【厚生労働省及び農林水産省からのコメント】

意見交換会の開催やホームページ、パンフレット等を通じた情報提供に努めてきている。説明資料、プレスリリース資料やQ&A等の資料については、わかりやすくするよう心がけている。

また、国や都道府県等のリスクコミュニケーション担当者に対する研修等も実施。

- ・ 今後も、皆様からの御意見を参考にし、更なる工夫に努めていきたいと思えます。

食品安全モニターからの報告（17年4月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 4件
- ・ リスクコミュニケーション 0件

食品安全モニターからの報告（17年3月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 6件
- ・ リスクコミュニケーション 0件

食品安全モニターからの報告（17年2月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 3件
- ・ リスクコミュニケーション関係 3件

X X X X

X X X X

X X X X

食品安全モニターからの報告（17年1月分）について

- ・ リスクコミュニケーション関係 1件

リスクコミュニケーションと消費生活アドバイザーの活用

双方のやりとりが基本となるリスクコミュニケーションの担い手として、消費生活アドバイザーの活用が有効と考える。アドバイザーを通じて、消費者の意見が行政に反映されやすくなるのではな

いだろうか。

(和歌山県 女性 37 歳 その他消費者一般)

【食品安全委員会からのコメント】

一般の消費者に加え、消費生活アドバイザーの方も含め、地域の消費者と接する機会の多い様々な立場の方々が、消費者からの声を伝えていただく一方、正しい情報や様々な意見などについて地域に還元していただくなど、リスクコミュニケーションの促進に向けて、意見交換会などにさらに積極的に参加していただくことを期待。

- 3 -

食品安全モニターからの報告（16年12月分）について

リスクコミュニケーション 0件

食品安全モニターからの報告（16年11月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 1件

リスクコミュニケーション 0件

食品安全モニターからの報告（16年10月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 1件
- ・ リスクコミュニケーション関係 2件

食品毒性の安全度に関する広報について

一部の学識者が、食品添加物の毒性をとりあげ、危険食品と決めつけた記事を書物に掲載しているため、食品安全委員会として、この説に反論する広報を出し、消費者の不安感を解消していただきたい。

(福岡県 男性 74 歳 その他消費者一般)

【食品安全委員会からのコメント】

食品添加物をはじめとした食品の安全性について、ホームページや季刊誌をはじめとした多様な媒体を通じて、正確な情報の提供に努めてまいります。

○ 食品中に含まれるアクリルアミドについて

食品安全委員会からの資料を見て、冷蔵庫内で保存した生のジャガイモを高温過熱（揚げ物）すると、アクリルアミドが生成することを知りました。現在、どのくらいの人が知っているのでしょうか。是非もっと広く一般消費者に情報提供が必要だと思われる。

(山口県 女性 58 歳 食品関係研究職経験者)

【食品安全委員会からのコメント】

食品安全委員会では、食品の摂取と健康影響に関することなどを広く国民に情報提供する一環として、ファクトシートの作成に取り組んでいます。また、食品中に含まれる微量のアクリルアミドが、ヒトに対して影響を示すのかどうかについて調査研究が進められています。また、2004年3月に開催された第36回コーデックス委員会食品添加物汚染物質部会（CCFAC）では様々な食品中のアクリルアミド含有量が示されました。詳細はホームページに掲載しておりますので御参照ください。<http://www.fsc.go.jp/sonota/acrylamide-food160930.pdf> 今後も、食品の安全性に関する情報を、随時ファクトシートとして作成するなど、情報提供に努めてまいります。

食品安全モニターからの報告（16年9月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 5件
- ・ リスクコミュニケーション関係 2件

2. リスクコミュニケーション関係

○ 食のリスクコミュニケーションについて

BSE、高病原性鳥インフルエンザ問題など、社会は食の安全問題で大きく揺れている。食品の「絶対安全」はあり得ないことであり、消費者もリスクコミュニケーションの考えに立って、安全と安

心の違いを尊重しつつ相互理解を深める努力が必要だと考えられる。(愛知県 女性 39 歳 その他消費者一般)

○ 消費者によるリスク判断について

多くの消費者に欠けているのが、「食のリスク」の考え方ではないだろうか。自分にとってのリスクを冷静に判断できる知識を消費者は身に付ける必要がある。消費者が冷静な判断をしていくためには、わかりやすく正しい情報が不可欠である。(福岡県 男性 53 歳 食品関係業務経験者)

【食品安全委員会からのコメント】

引き続き、皆様が食品の安全性に対する理解を深めていただくため、「リスク」の考え方をはじめ、食品の安全性について、わかりやすく情報を提供するとともに、皆様と双方向の意見交換を行うリスクコミュニケーションの推進に努めてまいります。

食品安全モニターからの報告（16年8月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 5件
- ・ リスクコミュニケーション関係 8件

2. リスクコミュニケーション関係

○ 食品安全委員会の情報伝達について

業界団体が国民に情報を知らせるときは、それぞれの資金力によって差があるように感じられるが、食品安全委員会の情報は、政府が新聞やテレビを活用して、全ての国民に行き渡るようにすべきである。(山口県 女性 40 歳 その他消費者一般)

○ 一般消費者にもわかりやすい内容や情報を

先日、新聞で「食の安全」に興味を持っている人が大多数であると報じられていました。食の絶対安全はないとはいうものの、もう少し一般消費者にもわかりやすく、平易な言葉での季刊誌、情報案内などを望みます。(新潟県 女性 54 歳 その他消費者一般)

○ 食品安全委員会のホームページについて

食品安全委員会のホームページを見ましたが、専門的過ぎて子どもや一般消費者には理解しにくいのではないのでしょうか。子供や知識のない方でも興味を持って見ることができる別ページを作るなどすればいいのではないのでしょうか。(兵庫県 女性 37 歳 その他消費者一般)

○ 食品の安全に関わる情報公開

大腸菌O157等の食中毒や食品汚染に関わる情報を早く公開してほしい。鳥インフルエンザの発生時のように、消費者が鶏肉消費についてどのように対処すればいいのかの判断が難しい状況にしないためにも、消費者自身が正確な判断ができるよう情報が必要になる。(奈良県 男性 62 歳 その他消費者一般)

○ 内閣府の平易な窓口としての情報開示を

安全を基準にした料理教室を主宰していますが、新聞で「食品安全委員会発足1年」の記事を読み、私も一消費者としての立場でのわかりやすい言葉やかみくだいた内容での情報開示とその窓口を内閣府(食品安全委員会)に期待します。(新潟県 女性 54 歳 その他消費者一般)

○ アカネ色素の報道について

アカネ色素の最初のTV報道で、もっとくわしくわかりやすい説明がほしいと感じました。何の知識もない人にとってはTVには大きな力があります。(和歌山県 女性 28 歳 食品関係業務経験者)

【食品安全委員会からのコメント】

今後とも、皆様からの御意見も踏まえながら、より良いリスクコミュニケーションのあり方を検討するとともに、多様な媒体を通じて、科学的に正しい情報をわかりやすく提供するよう努めてまいります。

○ 重大問題発生時の情報発信の方法について

重大問題発生時の情報発信の方法として、市町村と連携し各家庭へのパンフレット等の配布を提案したい。わかりやすく、くりかえし見ることができる印刷物は、多くの人々の理解を得る方法とし

て、非常に有効だと思われる。(大阪府 女性 49 歳 医療・教育職経験者)

○ 安全情報が広く正確に提供されるよう望むこと

BSEや遺伝子組換えのリスク評価や食の安全情報が広く正確に伝わるよう自治体を通じてアピールできればいいと思います。兵庫県では、毎月、県の広報誌に生産者と安全のための取り組みについて報告されています。それらを目にすることで、生産者を身近に感じることができ、不信感を払拭させてくれるように思います。(兵庫県 女性 43 歳 その他消費者一般)

【食品安全委員会からのコメント】

食品の安全性などについて、国民の皆様知識と理解を深めていただくことは重要であり、食品安全委員会では、委員会のホームページをはじめとして様々な媒体や機会を通じて、情報の提供に努めているところであります。御指摘のとおり、食品の安全性に関する情報については、自治体とその共有化を図りつつ、連携して国民の皆様提供していくことも大変重要と考えております。高病原性鳥インフルエンザが発生した際、関係府省から地方自治体に対し、正確な情報の伝達とともに、住民への広報の依頼等を行いました。また、9月17日には、昨年に引き続き、第2回目の全国食品安全連絡会議を開催し、情報の共有化を図るとともに、連携の重要性について改めて認識を深めたところです。今後とも、御指摘の点なども踏まえながら、食品安全委員会の取組や食品の安全性に関する情報を正確かつ分かりやすく提供するよう努めてまいります。

食品安全モニターからの報告（16年7月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 4件
- ・ リスクコミュニケーション関係 2件

2. リスクコミュニケーション関係

○ 食品に関する事件とマスメディア対応について

食品事件が起きるとマスメディアは、インパクトのある報道をするが、人体への安全について正しい報道を欠く面がある。食品安全委員会はメディアを指導して、正しい報道をするように、積極的に動いて欲しい。(東京都 男性 72 歳 食品関係業務経験者)

【食品安全委員会からのコメント】

日頃の情報提供とともに、これらの機会を通じて、マスメディア関係者に正確な情報が伝わるよう、今後とも努めてまいりたいと考えています。このほか、以下の意見があり、これらについても、関係行政機関にも回付しております。

○ 食品に関するリスクコミュニケーション(東京)講演会に出席した感想

食品に関するリスクコミュニケーション講演会に出席して、日本の食品安全委員会と欧州食品安全庁はシステム、科学的業務、リスク評価等同様であり、今後はマスコミ対策も含めた食の安心が大切であることがわかった。(東京都 男性 78 歳 食品関係研究職経験者)

食品安全モニターからの報告（16年6月分）について

食品安全モニターから6月中に、58件の報告がありました。

報告内容

<意見等（一般報告）>

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 2件
- ・ リスクコミュニケーション関係 6件

2. リスクコミュニケーション関係

○ 食品の安全性とは

一番大切なことは、「その食品が危険かどうか」ということではなく、「それをどのくらい食べたら危険か」というリスク量の問題なのです。常に消費者は、行政に安全と安心を一体化させたゼロリスクを求めるのではなく、自己責任において冷静な立場で判断していく自助の精神を持つことが

大切なのではないのでしょうか。国民一人一人が食の安全性についての認識を変えることにより、真の食品の安全性確保に繋がるのではないのでしょうか。(栃木県 女性 36 歳 食品関係業務経験者)

○ リスクコミュニケーションのあり方について

リスクコミュニケーションを円滑に推進するためには、食育(共通の食育概論)が必要不可欠になってくると思います。その上で、リスクコミュニケーションにおける具体的な手法を展開していくことで、初めて意見交換及び相互理解が成立するものと思われまます。

(栃木県 女性 36 歳 食品関係業務経験者)

○ 食の安全に関するテキスト発行について

消費者が食品の安全性に不安を感じている現状です。そのため、食品安全に対して、理解しやすく、不安感が解消できるようなテキストの発行が必要と思われまます。(茨城県 女性 54 歳 その他消費者一般)

○ 風評被害を防ぐために正しい情報をどのように伝えていくべきか

本当に大切な正しい科学的情報を、学校、地域の公民館、保健所、医療関係施設等に積極的に働きかけ、掲示し、保護者や子供向けのプリント配布などを義務付ければ、風評被害もある程度おさえられるのではないだろうか。(埼玉県 女性 40 歳 その他消費者一般)

○ 食品安全委員会が実施するリスクコミュニケーションについて

食品安全委員会は食のリスクコミュニケーションを全国各地で実施している。専門家と消費者が情報を共有し、意見を交換して双方が理解を深めるのが目的である。食の安全に関する施策に消費者の声を反映させるためには、あらゆる情報を開示し、消費者に理解・納得を図ることが大切である。

(福岡県 男性 53 歳 食品関係業務経験者)

○ 「消費者フォーラムin 千葉」に出席して

千葉県でも食品安全行政への総合的な取り組みが始まり、「しっかり選ぼう消費者の知恵で」のテーマで消費者フォーラムが開催された。大切なのは、消費者がこのような会に積極的に参加して、相互理解に努め、よく知った上でしっかり選べる人になることであろう。

(千葉県 女性 46 歳 その他消費者一般)

【食品安全委員会からのコメント】

今後とも、多様な媒体を通じて、科学的に正しい情報をわかりやすく提供するとともに、皆様からも御意見をいただきながら、有意義なリスクコミュニケーションの推進に努めてまいります。消費者の方々にも、意見交換会などを通じて、食品の安全性の確保に関する知識と理解の増進や意見の表明に努めていただくことを期待しています。

食品安全モニターからの報告(16年5月分)について

食品安全モニターから5月中に、55件の報告がありました。

報告内容

<意見等(一般報告)>

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 2件
- ・ リスクコミュニケーション関係 2件

2. リスクコミュニケーション関係

○ 食品に対する消費者の不安について

BSE問題や鳥インフルエンザも落ち着いたかに見えるが、消費者はいまだに不安を持っている。その不安を取り除くには、落ち着いている今こそ、地域だけでなく国が調査報告や安全を国民全員が目にする形で伝えていくべき。(京都府 女性 30 歳 その他消費者一般)

【食品安全委員会からのコメント】

今後とも、関係者との一層のリスクコミュニケーションの推進に努めてまいります。

【厚生労働省からのコメント】

厚生労働省では、BSEや鳥インフルエンザの問題について、新たに得られた情報等についてホームページ等を通じてお知らせするとともに、関係府省で連携して行っている意見交換会などの機会

にわかりやすい説明を行うよう努めています。

【農林水産省からのコメント】

農林水産省は、BSEや鳥インフルエンザについて専門家による会合や技術検討会を開催し、感染源や感染経路について調査・検討を行い、それらの調査・検討結果につきましては、農林水産省のホームページなどを通じて皆様にお知らせしています。今後とも、厚生労働省や食品安全委員会などの関係省庁と連携し、分かりやすく、正確な情報提供に努めてまいります。

このほか、以下の意見があり、これらについても、関係行政機関にも回付しております。

○ 報道と倫理問題について

食の不安全について、いろいろ悪報され、特に農薬・添加物が悪者にされている。生産者・取り締まり関係者は規則どおり実施しようとしているが、倫理に欠ける経営者が多く、それに関して食の不信感を煽る者が多いので、無責任な記事についての対策が望まれる。

(東京都 男性 78 歳 食品関係研究職経験者)

食品安全モニターからの報告（16年4月分）について

食品安全モニターから4月中に、25件の報告がありました。

報告内容

<意見等（一般報告）>

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 1件
- ・ リスクコミュニケーション関係 2件

2. リスクコミュニケーション関係

【食品安全委員会・厚生労働省・農林水産省からのコメント】

リスクコミュニケーションの今後の進め方につきましては、食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会において取りまとめられ、国民の皆様から御意見を募集中（6月10日まで）の「食の安全に関するリスクコミュニケーションの現状と課題」、その他これまで寄せられた意見や実績を踏まえつつ、円滑な意見交換が行われるように検討してまいります。今後とも、意見交換会や国内外の専門家による講演の議題や議論の進め方等については、御指摘の点を含め、皆様の御意見を踏まえながら改善を図りつつ、関係者間でのより深い情報の共有に資するようなリスクコミュニケーションの実施に努めてまいりたいと考えております。

○ リスクコミュニケーション

昨年度来、各地でリスクコミュニケーションが実施されているが、新年度にあたり、「より一層安全性について共有化がはかれるように」という視点から以下の提言をしたい。①ポイントを絞る。②基調講演とシンポジウムの論点をできるだけ合わせるようにする。③会場発言の論点も、これに合わせるように依頼する。④司会進行役の力量をあげる。（兵庫県 女性 56 歳 食品関係業務経験者）

○ リスクコミュニケーションの中期的な進め方について

最近のリスクコミュニケーションでは、「食にゼロリスクを求めることは賢明でない」という認識が少しずつ浸透してきていると思う。さらに段階を踏んで数年後には、リスクを数値でとらえて質の異なるリスクを比較する、という習慣が消費者にも望まれると思う。

(千葉県 男性 48 歳 食品関係研究職経験者)

食品安全モニターからの報告（16年3月分）について

食品安全モニターから3月中に、123件の報告がありました。

報告内容

<意見等（一般報告）>

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 14件

- ・ リスクコミュニケーション関係 6件

2. リスクコミュニケーション関係

○ 公的機関によるリスクとメリットの開示について

農薬、食品添加物等のリスクとメリット、すなわち毒性(安全性)データと使用することにより受けている恩恵を、公的機関が中立の立場で積極的に開示していくことを望む。(千葉県 女性)

○ 食品添加物等の情報公開について

食品添加物や農薬等を全く使用せずに食糧を生産することは、今やかなり難しいことであることは理解できますが、それらの情報について消費者はほとんど知らないのが実情で政府に情報の公開をしていただきたく思います。

(神奈川県 女性)

【食品安全委員会からのコメント】

食品安全委員会におきましては、食品の安全性に関するリスク評価を行っております。具体的には、農薬や食品添加物等の安全性につきましては、食品安全委員会の下に設置されている農薬専門調査会や添加物専門調査会等において審議された後、その審議結果案をもとに食品安全委員会において審議されます。御指摘の安全性に関するさまざまな試験の結果につきましては、評価の意見を求める際に、専門調査会及び食品安全委員会に提出され、「企業の知的財産等が開示され特定の者に不当な利益若しくは不利益をもたらすおそれがある」場合を除き、資料を公開することとしているほか、審議の議事録についてホームページに掲載する等、情報の開示に努めております。また、この審議結果案につきましては、その都度、国民の皆様からの意見・情報の募集を行っておりますので、ぜひ当委員会のホームページを御覧下さい。

【厚生労働省からのコメント】

個別の食品添加物や農薬等についての薬事食品衛生審議会での検討に当たっては、審議会の公開、資料の公開など、情報の開示に努めています。また、食品添加物や農薬等に関する様々な情報については、意見交換会などのリスクコミュニケーションに関する取組等を通じて、知識や理解を深めていただけるよう努めているところです。

【農林水産省からのコメント】

病害虫による農作物の被害を防止するための病害虫防除は、農業生産性上非常に重要ですが、効果、労力、コスト上の問題から化学合成農薬による病害虫防除が主体となっています。一方、消費者は食の安全・安心の確保の観点から、できる限り化学合成農薬に依存しない、より安心な農作物の提供を求めています。しかし、消費者は病害虫による農作物への被害や防除の実態を十分に認識しているとはいいがたく、生産者も消費者のニーズを十分につかみきれていない実態にあることから、生産者と消費者等との間で農薬や病害虫防除に関するリスクコミュニケーション等を行うことが極めて重要であると考えています。農林水産省は、昨年9月に残留農薬についてのリスクコミュニケーションを行い、その中で消費者等関係者に農薬や病害虫防除について情報提供や意見交換を行いました。また今後、生産量や品質に壊滅的な被害を与える病害虫の防除の必要性等について、農作物の主要産地等で、国、生産者、流通業者および消費者を交えた意見交換会やシンポジウムを開催する予定であり、このような取組を通じ、消費者に農薬についての正確な理解を得ていきたいと考えています。

○ 電子通信を利用した今後の「食の安全」への展開

横浜市や東京などの行政の取組みから、今後「食の安全」の展開には、広報の電子メール配信等の通信が必要と考えられる。(神奈川県 女性)

【農林水産省からのコメント】

農林水産省では、より多くの方に食品の安全・安心に関する情報等を迅速にお伝えするため、メールマガジン等を活用した情報提供に取り組んでいます。具体的には、農林水産省をはじめ食品安全委員会、厚生労働省からのプレスリリース情報等を、「食の安全・安心トピックス」として電子メールにより配信しています。このメールの配信をご希望される方は、農林水産省のホームページ内で

登録できますのでご覧ください。(<http://www.maff.go.jp/mail/index.html>)

このほか、以下の意見があり、これらについても、関係行政機関に回付しております。

○ リスクコミュニケーションが成り立つことについて

食品安全委員会の役割のひとつにリスクコミュニケーションの実施があげられているが、これが機能するためには関係者相互間の信頼が必須条件である。最近の食品関連事業者による偽装表示などの信じがたい行為は、この制度を根底から揺らがすものと思う。(奈良県 女性)

○ リスクコミュニケーション

BSE、鳥インフルエンザ等の情報は市の広報誌、新聞、テレビ、ラジオ等のマスコミからの記事が多い。牛丼騒動については毎日のようにテレビで取り上げられていたが、大騒ぎしているのはテレビ局だけと見ていました。(石川県 女性)

○ 食の安全に関する情報伝達の問題点

食の安全についての政府見解は、関係省庁が立場の違いから、それぞれの対応を述べるなど、時に理解しづらい場合がある。またBSEの全頭検査では、科学的根拠に乏しいとする学識経験者の見解がマスコミで報道されていることに違和感があった。政府見解は、専任の報道官を任命して行ってほしい。(埼玉県 男性)

食品安全モニターからの報告(16年2月分)について

食品安全モニターから2月中に、69件の報告がありました。

報告内容

<意見等(一般報告)>

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 4件
- ・ リスクコミュニケーション関係 6件

2. リスクコミュニケーション関係

○ 食品安全委員会にお願い

食品安全委員会の活動を国民に周知してほしい。

(兵庫県 女性)

○ 食のリスクの意見交換会感想

牛のBSEを含めたオランダ・EUの状況について聴取し、日本の場合も、国民の信頼性を得るよう、迅速・透明・わかりやすく報道することが大切と思った。オランダは企業の食製品の品質に重点を置いているが、日本の状況は違うと思った。

(東京都 男性)

○ リスクコミュニケーションの方法について

リスクコミュニケーションの推進を図るためには、マスコミ関係の方々に、もっと食の安全についての知識を深めてもらい、積極的な情報提供に取り組んでもらうことが重要であると思う。また、子供たちへの食育にも力を入れていただきたいと思います。(愛知県 女性)

○ 食の安全の正しい情報を伝えることの大切さ

BSE、鳥インフルエンザと問題が起こるたびに消費者は、迷います。正しい情報を消費者にわかりやすく、新聞・報道機関に提供していただくことを切に望みます。(愛知県 女性)

○ 食肉の不信・不安と安心・安全

昨年末より、BSE、鳥インフルエンザ、さらには豚にニパウイルス発生と、食肉に関して安全を脅かすニュースが続いている。情報ひとつとっても、受け手の考え方ひとつで不安は増大したり減少したりするわけで、消費者は混乱すると思われる。(長野県 女性)

○ テレビ放送による食品安全性管理システムの確立

誤解をしてしまう放送が流れたとき、まちがいを正しいと放送してしまったとき、正しく管理する国のシステムが必要だと思います。食品の専門知識を持った人が、食の安全を管理することが大切です。(愛知県 男性)

【食品安全委員会からのコメント】

現在、国民の関心が高いBSEや鳥インフルエンザ問題については、食品安全委員会としても、委員会会合の議題に取上げて、関係機関からの報告聴取や専門家による議論等を行い、情報の収集・分析と、正確かつわかりやすい情報提供に努めているところです。具体的には、委員会会合を公開で開催するとともに、

- ① 食品安全委員会のホームページへの分かりやすいQ&Aの掲載
- ② 委員によるテレビ番組等での解説
- ③ 消費者、生産者等幅広い関係者が参加する講演会や意見交換会の開催等を精力的に行っています。

また、マスメディア関係の方との懇談などを通じて、正確な情報の提供にも努めています。今後とも、様々な機会を利用しながら、国民の皆様へ食品の安全性に関する情報を正確かつわかりやすく提供できるよう努めてまいります。

【厚生労働省からのコメント】

正しい情報を消費者等の関係者にわかりやすく提供することは、リスクコミュニケーションに当たって常に心がけるべきことと考えております。消費者の一般的な情報入手方法は、新聞・テレビなどであるといわれており、これらの報道機関を通じて情報が正確にかつ分かりやすく提供されることが重要と考えております。このような観点から、厚生労働省では、報道機関に対する適切な情報提供がなされるよう今後とも努めてまいります。

【農林水産省からのコメント】

食品の安全性などについて、正確な情報を提供していくことは非常に重要であると考えています。このため、マスコミに対しては正確な報道をしていただくために、プレスリリースや記者会見を通じて、正確な情報を提供するとともに、本省、地方機関の各段階において、消費者、生産者、食品事業者等の方々との意見交換と情報提供の実施、ホームページ、メールマガジンを活用した正確でわかりやすい情報の提供により、関係者の方々に直接情報をお届けしています。また、本省をはじめ各都道府県毎に48ヶ所の消費者相談窓口を設置し、消費者の方々の懸念や疑問への確に対応できるよう努めています。今後とも、わかりやすい情報の提供、幅広い方々との意見交換に努めてまいります。

食品安全モニターからの報告（16年1月分）について
食品安全モニターから1月中に、44件の報告がありました。

報告内容

<意見等（一般報告）>

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 1件
- ・ リスクコミュニケーション関係 1件

2. リスクコミュニケーション関係

○ 食の安全に関する意見交換会に出席して

12月の福岡市で開催された「食の安全に関する意見交換会」に参加して、食の安全安心に関して消費者を啓蒙することは大切であると感じた。そのために開く会を広く知らせる手段や演者のわかりやすい話し方の工夫が必要である。（福岡県 女性）

【食品安全委員会からのコメント】

食品の安全性の確保のため、食品安全委員会においても、食品のリスク（健康への悪影響が生ずる確率と影響の程度）やその評価、リスク分析の手法などについて、消費者や事業者など幅広い関係者を集め、全国各地で意見交換会を積極的に実施しております（関係省等とも連携して本年1月末までに全国で22回開催）。ご指摘いただいた点につきましては、これまでもホームページなどを通じて開催情報等を提供しておりますが、今後は、可能な限り早期に消費者をはじめ広く周知するため、チラシの配布やポスターの掲示といった手段等も活用していきたいと考えております。また、意見交換会の場における発言の際には、消費者にとってわかりやすい説明を心がけ、その方法も工

夫してまいります。

【厚生労働省・農林水産省からのコメント】

意見交換会の開催案内につきましては、地方厚生局や地方農政局、開催地の自治体などにもご協力いただき、ホームページや新聞（全国紙、地方紙）、消費者団体等へのお知らせ等いろいろと工夫をしているところですが、まだまだ十分に情報が伝わっていないと認識しております。行政からの説明の仕方も含め、更なる工夫に努めていきたいと思っております。

食品安全モニターからの報告（15年12月分）について

食品安全モニターから12月中に、37件の報告がありました。

報告内容

<意見等（一般報告）>

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 1件
- ・ リスクコミュニケーション関係 5件
- ・ リスクコミュニケーション関係

○ 食品の安全に対する広報と相談窓口の有様

食品の安全に対する行政指導は、実を結びつつあるが、まだまだ消費者に対する広報が遅れている。これらを通じて、生産者、流通業者に対する意識改革を図るべきである。（和歌山県 女性）

○ 健康以前に食品の安全

健康は当然大切な問題であるが、その一步手前が食の安全であります。今後は食品安全について、討論、発表、研究、検査等を行った結果等を広く国民に知らせることが大切ではないでしょうか。（島根県 男性）

○ リスクコミュニケーションと食育の必要性

食の安全・安心を築くための第一歩は、生産者と消費者との信頼関係を構築する事だと思います。そのためには、両者と専門家を交えたリスクコミュニケーションを開いたり、正しい食育をする必要があると思います。（京都府 女性）

○ 消費者の安全に対する目を育てよう

食品の安全に対する目を一般消費者にも、もっと持ってもらうために実際に消費されている現場を使った広報活動（フェアやキャンペーン等）の必要性を感じます。その結果、生産者や食品関連事業者においても責任をもっと強く意識させることになるのではと思います。（青森県 女性）

○ 「地産地消で食品の安全を」について

食品の安全と地域の経済発展は、地産地消により地域社会が育てていくことが重要であり、そのことで消費者と生産者とのコミュニケーションが図れるし食の安全につながると思う。また、学校教育の中で、食に対して子供たちに関心を持たせる食育も非常に重要である。（徳島県 男性）

【食品安全委員会からのコメント】

消費者、生産者、行政機関、科学者等の関係者がこうした取組に積極的に参加し、意見交換を一步一步積み重ねていくことによって、御意見にもありました「消費者の安全に対する目が生まれ」、「生産者と消費者などの関係者間の信頼関係を構築」できるものと考えております。

- 4 -

【厚生労働省からのコメント】

厚生労働省では、関係者が食品の安全に関する知識を深め、リスクについてともに考え、協力し合う仕組みを推進するため、各地での意見交換会の実施や食品の安全性に関する情報の普及啓発などのリスクコミュニケーションに取り組んでいます。

【農林水産省からのコメント】

農林水産省では、昨年7月に新設した消費・安全局にリスクコミュニケーションを行う「消費者情報官」を設けるとともに、地方段階においても、各地域におけるリスク管理情報の収集・提供業務等を行う部を新設するなど、本省・地方を通じた体制を整備しました。この体制の下で、

- ① 「電子メール」を活用した消費者・生産者・事業者等との機動的な情報・意見交換の実施
 - ② ホームページを通じた関連情報の積極的な提供及びこれに対する意見の募集
 - ③ 「食」と「農」を語り合う会（農林水産省版タウンミーティング）、大臣と消費者等との懇談会、内閣府食品安全委員会や厚生労働省と連携した中央及び地方での意見交換会の開催
 - ④ 残留農薬や家畜に使用される抗菌性物質などの個別テーマについて、消費者・生産者・事業者などの関係者の懸念や意見を施策に反映するための「食品に関するリスクコミュニケーション」の実施
 - ⑤ 関係審議会への消費者代表の登用など、様々な取組を行っているところです。
- 今後とも、これらの取組を通じ、より多くの方々の懸念や意見が施策に適切に反映できるよう努めてまいりたいと考えています

食品安全モニターからの報告（15年11月分）について

- ・ 食品安全委員会活動一般関係 4件
- リスクコミュニケーション 0件

食品安全モニターからの報告（15年10月分）について

- ・ リスクコミュニケーション関係 6件

2. リスクコミュニケーション関係

○ リスクコミュニケーションを消費者に普及させるためには

リスクコミュニケーションにより得られる食品の安全性を広めるためには、消費者の理解が大切である。わかりやすく説明を補足したり、相談を気軽にできるような機会や人材の育成等を望みます。（広島県 女性）

○ 消費者の食品知識向上のための啓蒙活動を！

食品安全を守るために大切なのは、それを利用する消費者が関心を持ち、正しく判断できるということです。そのために、行政を中心に、正しい情報を伝えると同時に、食品の知識向上のための啓蒙活動を継続的に実施する。（神奈川県 男性）

○ 「安全な食生活をするためには」について

安全な食生活を営むためには、食品の安全を確保するだけでなく、生産者、消費者、共に正しい知識を得る仕組みや機会を設けることにより一人一人が、健康な食生活をするための努力をしなければならない。（徳島県 女性）

○ 食育及び食品安全についての教育問題

人の社会生活にとって「食育」や食品の安全なあり方、とり方の教育問題は非常に大切なことである。特に年少期でのしつけや教育の問題は重要であり、人々の食生活のマナーやルールを今一度考えてみる必要を感じます。（東京都 男性）

○ 水銀を含有する魚介の摂食に関する注意事項について

厚生労働省の審議会による上記勧告の出し方は、今までになく具体的であり、消費者の注意を喚起するのに効果的であった。実生活に役立つ情報開示の方式を定着させ、消費者も冷静に判断するようになりたい。（静岡県 女性）

○ 「食の安全ダイヤル」の周知徹底について

食の安全に関する情報を、早く確実に収集したり、公開するためには、各自治体のホームページなどの広報手段を有効に活用し、「食の安全ダイヤル」を広く地域の人々に知らせることが急務だと考えます。（福岡県 女性）

【食品安全委員会からのコメント】

安全な食生活を営むための大切な要素として挙げていただいた「消費者の理解」や「一人一人が健康な食生活をするための努力」に資するよう、ホームページを通じて積極的に情報を提供しています。また、関係行政機関とも連携して、今後とも各種の意見交換会を実施し、消費者が食の安全に

ついて関心を持ち、的確に判断できるよう正しい情報の伝達に努めて参りたいと考えています。ぜひ積極的にご参加いただければと思います。意見交換会の開催情報などについては、食品安全委員会のホームページに随時掲載いたしますので、ご確認ください。また、食品の安全性についてお問い合わせいただく「相談を気軽にできるような機会」として『食の安全ダイヤル』

(03-5251-9220/9221)を設置しています。ぜひお気軽にご利用下さい。また、『食の安全ダイヤル』をより多くの方に知っていただけるように、様々な機会を利用しその広報にも努めて参ります。

【厚生労働省からのコメント】

厚生労働省では、内閣府食品安全委員会、農林水産省とも連携して、食品の安全に関する情報をわかりやすく伝えるとともに、正しい知識の普及啓発を図り、関係者相互の意見交換を促進するための機会として、「食の安全に関する意見交換会」を各地で開催しています。また、インターネット等を活用した情報発信についても、Q&Aを作成するなど、正しい理解の推進に努めています。

【農林水産省からのコメント】

リスク管理を行い施策を決定していくに当たって、消費者、生産者、事業者、農林水産省の関係者が互いに情報や意見を交換して施策へ反映させるため、次のようなことに取り組んでいます。

1 意見交換会・懇談会の開催① 農林水産大臣と消費者など関係者との意見交換会・懇談会の開催
リスクコミュニケーションの一環として意見交換会・懇談会を開催し、農林水産大臣が消費者、関係団体などと意見交換を行っています。

② 食品に関するリスクコミュニケーション（消費者団体との施策意見交換会の開催）

食品に関するリスクコミュニケーションを開催し、消費者の関心の高い食の安全・安心に係る事を中心にテーマを設定して、広く消費者などと意見交換することにより施策の理解を進めるとともに、消費者ニーズを施策に反映するよう努めています。

③ 食の安全・安心に関するシンポジウムや意見交換会などの開催や出席。

④ 各地域で開催される食の安全・安心に関するシンポジウムや意見交換会などに消費・安全局の幹部が出席して、意見交換を行います。

2 ホームページやメールマガジンを通じた情報提供

本省、地方農政局などの関係機関がホームページ、メールマガジンなどを活用して、食の安全・安心に関する情報を提供しています。